

成果発表会 3年SGコース 英語で発表

3年SGコース成果発表会が7月13日(金)に開催されました。34Hの生徒40名が、1年半進めてきた課題研究の集大成として、東京外国語大学・金沢大学の外国人留学生や、県内外の教育関係者に対して英語で発表しました。

発表会では、プレゼンに加え、質疑応答も英語で行われ、生徒はこれまでの研究を踏まえ、グループで協力して質問に答えました。参観者からは「留学生の質問に適切に回答し、そこでのやりとりからまた会話や議論が発展していく姿にとっても感動した」「生徒の主体性が伝わってきた」「ゲストを楽しませようとする姿勢が素敵だった」など多くの高い評価をいただきました。



「自分の成長に驚き」「納得いく発表できた」「研究をもっと先へ進めたかった」

感想① 去年の先輩の成果発表会を見てから一年が経ち、今回の発表会で自分たちが外国人の方々に英語でプレゼンができるまで成長したということに一番驚きました。



発表会の合間には休憩を兼ねて、交流会を開きました。打ち解けた雰囲気の中、生徒は留学生と様々なトピックについて話し、日本と外国の文化や考え方の違いを感じました。

感想② 自分は二年生の夏にあった留学生との交流会のときに、全く英語を話すことができず、このままだと来年の今頃は何もできないと焦ってばかりでしたが、日頃のSGの活動やアメリカでの体験があったおかげで、今回の発表会では大きな達成感が得られた。英語を少し話せるようになった。それで交流やプレゼンができたというのは今でも信じ難いことだが、自分を変えることができたという点で大きな財産になったと思う。

感想③ 一年間のSG探究を通して、主体的に、そして多角的に物事を見る力がついたと思います。新しい解決策を見つけてもすぐに別の問題が見つかったりと、大変なことはありましたが、最終的に自分たちの納得のいく研究、そして発表ができたと思います。

感想④ 研究を通して、コミュニケーションの大切さや1つのトピックを深く掘り下げていく力、議論する力がとてもついたと感じます。研究が終わって、もっと先へ先へ進めたかったという気持ちも大きくて、後悔もたくさんあります。2年生の人たちには、自分たちで実現可能だ!!というところまでいってほしいなと思います。

おもてなしガイド

2年SGコース 留学生をご案内 in 金沢



感想 私たちからしたらいつも何気なく見ているものだけど、初めて見る人からすれば珍しいもので、刺激を受ける美術品なのだと分かった。普段当たり前で思い、金沢の魅力を感じられていないが、客観的に自分たちの町、金沢を見直したいと改めて思った。

「おもてなしガイド」が成果発表会の翌日の7月14日(土)に行われ、2年SGコースの有志11名が東京外国語大学の留学生4名を連れて、金沢の観光地などを案内しました。今回のガイドプランは、6月9日(土)のワークショップで「color」「time」「water」「sound」をテーマに生徒がグループごとに考えたものです。「sound」のグループは、金沢らしい「音」を求めて三味線体験へ案内したほか、能楽美術館、近江町市場を訪ね、留学生を楽しませました。

Chat time

1・2年希望者 留学生とお話

「Chat Time with Foreign Exchange Students (留学生との座談会)」が、成果発表会終了後に開かれました。

1・2年生の希望者26名が参加し、シリア・ロシア・フランス・コロンビア出身の東京外国語大学の留学生とざっくばらんにおしゃべりしました。



海外大学生と意見交換

「プリンストン・イン石川」 2年SGコース 研究を深める

2年SGコースの生徒40名は7月11日(水)に、プリンストン大学などの海外大学生と交流しました。

来校したのは、石川県が主催する短期留学プログラム「プリンストン・イン石川(P11)」に参加する大学生22名。生徒は4月から続けている課題研究の内容について、大学生と意見交換や議論をしました。お互い相手の意見を理解しようとする真剣な表情と思いが通じたときの笑顔とに満ちた2時間でした。



感想① 3人の留学生とお話をしたが、それぞれ意見をもって、留学生同士が激しく意見をぶつけ合っていて、とても刺激を受けた。思えば、自分たちはあれだけ強くぶつかり合ったことはなかったなとも思った。



「意見のぶつけ合いに刺激」問題意識をはっきりさせねば」

感想② とにかく思ったのは、自分の英語力が乏しすぎるということです。伝えようと思ったことがすぐに英語に変換されなくてとてももどかしかったです。もっと日頃から英語を伝える練習をしておかないとダメだったなと思いました。

感想③ 課題研究の話になったとき、私たちは論理的な考え方がなっていないと指摘されました。何でその問題を解決しなきゃいけないのか、どれほどのダメージがあるのかなど、問題意識をはっきりさせなければならぬと気付かされました。

SDGs 特別講義

チョコやゲームから世界の課題へ 山藤先生「心がふるえる発想と行動を」

SDGs特別講座は7月18日(水)、東京都立武蔵高校の山藤旅間先生をお招きし、1年生と2年SGコースの生徒を対象に開かれました。1年生への講演では、植物油の入ったチョコレートと入っていないチョコレートの食べ比べが行われ、生徒たちはパームオイルプランテーションの開発と熱帯雨林の消失がせめぎ合うボルネオ島の環境問題について理解を深めました。2年SGコースへの講義では「2030 SDGsゲーム」を行い、生徒は理想の未来を目指して知恵を絞りました。

山藤 旅間(さんとう りよぶん)先生
東京都立武蔵高校教諭(生物)。
「出前講座」を通じて学校の枠を超えたSDGs教育の普及に尽力している。

1年生の感想① 私たちの大量消費が熱帯雨林の破壊に影響しているを知って、商品の消費の仕方を考え直すことが必要だと思った。

1年生の感想② SDGsについて自分なりに考えて、世界の現状をたくさんの人々に伝えられるようにしたい。



2年生の感想 SDGsは十分に経済発展した先進国にブレーキをかけるためにあり、その国々が持つお金を手段として、環境や社会のために力を使うことを目的としているということを知って、はっとした。

JICA特別講義

JICA北陸支部長の仁田さんが講演 幸福の国ブータンについて学ぶ



3年文型と2年SGコースを対象に、JICA特別講義が7月9日(月)にありました。講師は3年半ブータンで勤務された仁田知樹さん(JICA北陸支部長)で、「世にもユニークな国・ブータンへ幸せの国に学ぶ〜」という演題でお話をいただきました。ブータンという国を通して、私たちの生き方や価値観を改めて考えさせられる時間でした。

感想① ブータンのGNH政策によって周りの国々も幸せをはかる指標について考え始めたと聞いて、ブータンが世界に与えた影響はとて大きいのだと分かった。

感想② 今私がいる幸せな状況に感謝して生きていきたいと思いました。あと、世界のために国際協力をするって素敵だなと思いました。青年海外協力隊にすごく興味を持ちました。

参加者募集

～ グローバルリーダー養成講座・医学部研究会 ～

「グローバル×医学」

現在、金沢大学医学類に在籍する2名の本校卒業生から、「医学部生から見るグローバル課題」「医学部生であるということ」をテーマにお話ししてもらいます。対象は、グローバル課題に興味がある生徒(文型も歓迎)や医学部進学希望の生徒です。

日時：9月14日(金) 放課後 15:20～16:40 場所：iStudio(5階・理科講義室)

※申し込みはSGH推進室まで! 締切9月7日(金)